

当報告の内容は著者の著作物です。

フィールド言語学ワークショップ勉強会（第1回）

開催日時：平成22年7月30日（金曜日）午後4時30分～午後6時

開催場所：AA研3階 セミナー室（301室）

講師：澤田英夫（AA研所員），長崎郁（AA研特任研究員）

概要：

この勉強会は、言語データの管理・整備・加工・変換の基礎の習得を目的に、定期的（月1, 2回, 1回につき1時間から1時間半）に開催されるものである。フィールド言語学ワークショップシリーズにおけるこの勉強会の役割は、これまでに開催されたワークショップの内容に対する補足と、今後開催されるワークショップへの準備という点にある。

今回の勉強会はその第1回目であり、次のようなトピックを扱った。

- (1) テキストエディタの基本的な使い方
- (2) IPAの表示のためのフォント
- (3) フォントユーティリティによるIPAの入力
- (4) Toolboxの使い方に関する個別相談／Toolboxの基本的な使い方

勉強会では、まず、言語データの編集に欠かせないテキストエディタの使い方を、EmEditor（エムソフト社）を例に学んだ。次に、IPA（発音記号）を表示するためのフォントとして、現在どのようなものが使えるのか知識を得た後、Babelmap（BabelStone社）というフォントユーティリティを使って発音記号をテキストに入力する方法を学んだ。また、勉強会の後半は、Toolboxワークショップ（2010年7月11日開催）の受講者へのソフトの使い方に関する個別相談と、ワークショップ未受講者への、Toolboxの基本的な使い方についての説明に当てられた。言語学のみならず人類学を専門とする研究者まで、また博士前期課程在籍中の学生からフィールドワーク歴50年の研究者までを含む非常にバラエティー豊かな12名の参加者により、勉強会全体にわたって活発な議論・質疑応答が展開された。このように勉強会自体は有意義であったが、時間配分の点でプログラムにやや無理があり、時間を大幅に延長せざるを得なかったことが反省すべき点として残った。

受講者からの感想：

第1回勉強会の終了後、受講者から次のような感想が寄せられた。

勉強会に参加して良かった点

- 日頃知りたいと思っていたことを質問できたこと。
- BabelMapを知ったこと。論集を印刷するための統一フォントを決めるときなど、いろいろ役に立ちそうです。
- 今までソフトの名前だけはよく聞くけれど、自分では使ったことがなかったので、基本的な使い方がわかって良かったです。
- テキストエディタは知識ゼロだったので、どういうものか知ることができてよかった。
- BabelMapも知ることができてよかった。使っていて面白いです。
- Toolboxは初心者向けの説明がこれで3、4回目くらいなので、やっと使い勝手が分かってきました。
- 記述言語学プロパーの方に一から説明が聞けて大変有益でした。
- たくさん新知識を得ることができました、ありがとうございました。
- emeditorを使ってはいたものの、まだまだいろいろな機能があるんだなということが分かったこと。
- toolboxの個別相談時にいろいろ気軽に質問できて良かったです。おかげさまでこの前より使えるようになりました。
- 言語学を専門としている方々の中で、全くの素人の私がついていけるかどうか最初は不安でしたが、説明が大変分かりやすかったので大変ためになりました。今回教えていただいた内容を、今後の調査に活用できないかと考えております。
基本的な知識として必要な情報でしたし、具体的に、少数民族のことばをIPAやネパール語に、それをまた英語や日本語に翻訳する作業がある場合に使えるそうです。

勉強会で改善すべき点

- 1回の内容を少なくしても良いと思います。
- 時間不足
- マイクを用意しておいた方が良い。
- プログラムの時間配分が良くなかった。
- やはり、一回で伝える情報量を今回の半分程度にして、もう少しゆっくと説明していただけるとありがたいです。

報告書作成：長崎郁（AA研特任研究員）